

西日本インカレ（合同研究会）2016 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

大学・学部・所属ゼミナール名（フリガナ）		
フリガナ）ワカヤマダイガク	フリガナ）ケイザイガクブ	フリガナ）ズシ ナオユキ
和歌山大学	経済学部	厨子 直之 ゼミ

※大会申込書時に記入したチーム名から変更することはできません。

※パワーポイント内に動画を使用している場合は「有・無」を記入してください。

チーム名（フリガナ）	代表者名（フリガナ）	チーム人数 （代表者含む）	パワーポイント内の 動画使用（有・無）
フリガナ）フスマ	フリガナ）イシバシ ユナ	5	無
ふすま	石橋 由菜		

研究テーマ（発表タイトル）

学生における楽観性に影響を与える要因について

※必ず<企画シート作成上の注意>を確認してから、ご記入をお願いいたします。

1. 研究概要（目的・狙いなど）

楽観性は健康や主観的幸福感、キャリア発達などに良い影響を与えることがわかっている。しかし、その楽観性はどのようにして高められるのかがまだ判明していない。そこで私たちは自身にとって一番身近な学生に焦点を当て、楽観性に影響を与える要因を調べた。この研究をすることで、学生の楽観性を意図的に高めることができ、健康や主観的幸福感、キャリア発達などにつながることを目的とする。

2. 研究テーマの現状分析（歴史的背景、マーケット環境など）

近年、人間の持つポジティブな特性や機能への注目がますます高まっている。このような動きは、ポジティブ心理学として注目されており、それに関する研究や書籍も多く出されている。ポジティブ心理学の重要な目的の1つはどのような要因がどのように幸福の向上に繋がっているのかを解明することである。

幸福の感じ方は人によって異なり、一概に全ての人が同じであるとはいえない。そのため幸福を検討する際には、客観的な指標だけでなく、個人の心理的側面や主観的判断から検討することが重要であると考えられる。このような幸福の主観的側面は主観的幸福感と呼ばれる。これまで、主観的幸福感と関連する様々な要因が検討されてきている。今回はその要因の中でも特に楽観性に注目する。

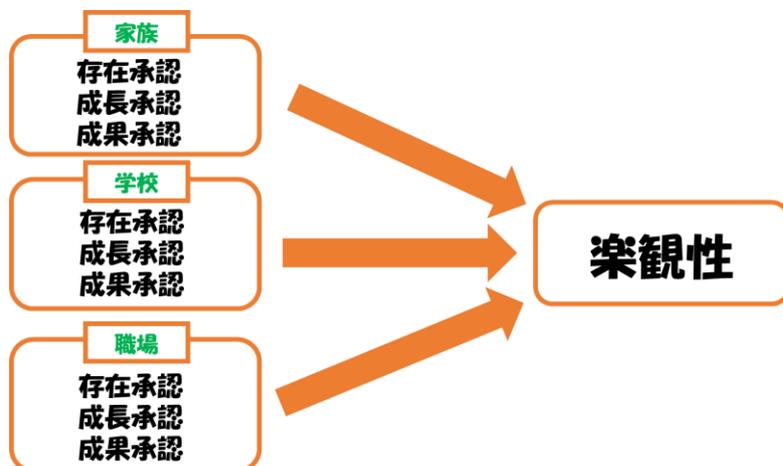
楽観性とは「物事がうまく進み、悪いことよりも良いことが生じるだろうという信念を一般的にもつ傾向」（戸ヶ崎・坂野 1993）と定義されている。過去や現在ではなく未来に対してポジティブな期待をもつ特性である。この楽観性は先ほど述べた主観的幸福感だけでなく、健康状態やキャリア発達に良い影響を与えるという研究結果もでている。このように楽観性が様々な場面で良い影響を及ぼすことが現時点でわかっている。

3. 研究テーマの課題

先ほど述べたように、楽観性が高いほど健康や主観的幸福感、キャリア発達などに良い影響を与えることがわかっている。しかし楽観性を高める要因はまだ判明していないので、その点を明らかにすることがこの研究テーマの課題である。

4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

最近、組織メンバーのモチベーションを高めるマネジメントとして承認が注目されているので、楽観性にも何か影響を与えるのではないかと考え、承認を取り上げた。承認には、存在承認、成長承認、成果承認の3つがあることがわかっている。私たちは、学生が所属する組織は、家族、学校、職場の3つが主な組織であると考え、どの主体のどの承認が最も楽観性を高めるのかを研究した。



5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

家族に関して存在承認・成長承認・成果承認についてそれぞれ3問の計9問

学校に関して存在承認・成長承認・成果承認についてそれぞれ3問の計9問

職場に関して存在承認・成長承認・成果承認についてそれぞれ3問の計9問

楽観性に関して3問

デモグラフィック変数（年齢、性別、身分、自分自身を楽観的だと思うか）4問

を質問項目としてアンケートを作成した。

そして、関西の国立大学と私立大学の学生252名と、Googleフォームで作成したアンケートをSNSで拡散し回収できた157名のうち、回答に不備のあった1名と社会人17名を除外し、計391名を分析の対象とした。

分析にはSPSSという分析ソフトを使用した。

6. 結果や今後の取り組み

分析をした結果、学校の成長承認のみ楽観性に影響があった。

楽観性はすぐに高められるものではないので、社会人は学生の間に楽観性を高めておかなければならない。効果的に学生の楽観性を高めるには、学校で成長できたことを褒めることや結果にこだわらず成長している過程を褒めることが必要だ。

今後の取り組みは、楽観性の高い学生が社会人になったときに継続して楽観性が高い状態を維持しているのかを研究することである。また、社会人に対して楽観性を高める方法があるのかを研究する。

7. 参考文献

- ・橋本京子・子安増生（2011）「楽観性とポジティブ志向および主観的幸福感の関連について」『パーソナリティ研究』19（3）、233～244ページ
- ・永久理恵・井田政則（2013）「キャリア発達に影響をおよぼす要因について」『心理学研究年報』
- ・中村陽吉偏『対人場面における心理的個人差』
- ・森田慎一郎（2007）「日本の会社員におけるポジティブな労働観と職務満足との関連一定着志向を比較対象とした検討」『産業・組織心理学研究』
- ・伊藤守・鈴木義幸・金井壽宏（2010）『コーチング・リーダーシップ』ダイヤモンド社。
- ・『心理測定尺度集 I～VI』

西日本インカレ事務局への連絡事項

<企画シート作成上の注意>

※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1チーム・1点提出してください。

※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1～7以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。

※本企画シートは、西日本インカレ事務局への連絡事項と企画シート作成上の注意を含め、3ページ以内に収めてください。事務局から審査員に渡す際は、A4サイズでプリントし、3ページ目までを渡します。

※企画内容は、未発表の（過去に他誌・HPなどに発表されていない）ものに限ります。ただし、学校内での発表作品は未発表扱いとなります。

※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日経BP社・日経BPマーケティング社は一切の責任を負いません。

※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先（使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など）を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Webサイト上の資料を利用した場合は、URLとアクセスした日付を明記してください。

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

※その他、注意点については「企画シート・パワーポイントの作成および提出について」をご参照ください。